

切絵 旧浜田温泉 和泉明朗氏提供

一五年（二〇〇三）解体除去されてしまった。

その前後から別府市民の間で旧浜田温泉建物を惜しむ声が高まり、この市民の熱い思いを知った元小学校教師の森田ミサ子さん（七五歳）が、建物復元費用として六五〇〇万円を市に寄付された。お陰で旧浜田温泉館は、『別府市浜田温泉資料館』として見事によみがえり、平成一七年（二〇〇五）八月二十九日、復元竣工セレモニーが盛大に挙行された。

今後、浜田温泉資料館は、別府の温泉文化遺産として、また温泉資料館として、その活用が期待されている。

お大師さま異聞

非会員 枝郷 大野 三十四

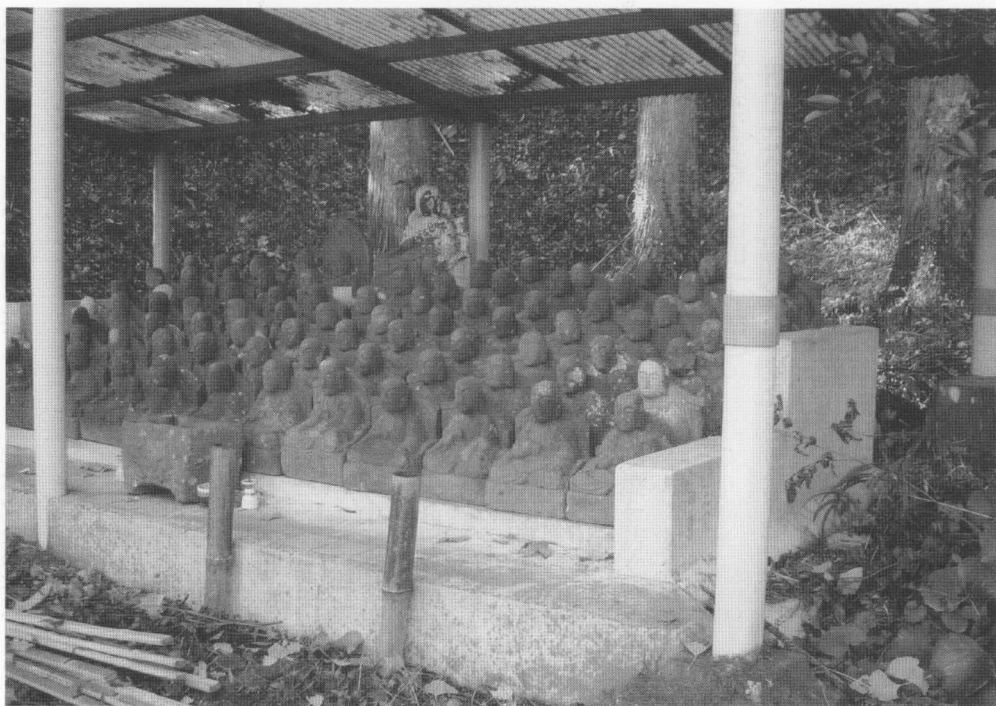
わが家へ通じる田圃道脇の入り口に、八七体のお大師さまを中心に九〇余体の石仏が祀られている。祖母の生前の話では、このお大師さまは、住所も氏名も分からないある人が、願かけのために豊岡の石工に依頼して造った彫像で、完成後依頼主が受け取りに来ないまま、石工の家に保存されていたものだという。石工のほうでも、多数の彫像をそのまま置いた

ておくわけにもいかず、誰か引き取り手はないものかと探したらしい。

たまたまこの話を聞いた曾祖父俊作が、豊岡に出掛けてこれの引き取りを申し出た。石工の方も渡りに船と喜んだと推定されるが、曾祖父は「ほご」（ワラで作った物入れ）に石仏二体ずつを収めて前後に担ぎ、枝郷・豊岡間を徒歩で運んで現在地に祀った。これがわが家のお大師さま合祀の由来である。

祖母の話では、曾祖父は雨よけに屋根も葺いて小さな草庵を建てたらしいが、長い年月の間に朽ちて、石仏もその下に埋もれたままになっていた。曾祖父の思いもあったことであろうと、最近それを掘り出してみようと思いい立ち、九〇余体を掘り出した。雨よけの覆いも作り、元のままに配列して今に至っているが、いずれにしても奇縁であると思う昨今である。

依頼主のことであるが、石仏の中に一体だけ「府内領」と刻んだものがある。あるいは「府内領」居住者が依頼主であったのかも知れない。それにしても曾祖父は、遠く豊岡の地から徒歩で一〇〇体近いお大師さまを運んだというから、大変信心深い人物であったのだろう。



大野三十四家 お大師群像 研修部撮影